

9-2

特別養護老人ホームにおける情報共有化の推進について

より質の高い“気付き”を共有する為の情報化をすすめるために

情報共有化
気付きの質の向上

特別養護老人ホーム 九十九園

発表者：介護係長 小川 篤史	共同研究者：介護部長補佐 春日 大河
所在地：東京都青梅市成木1-634-7	
TEL：0428-74-5105	E-mail：99info@busonkai.com
FAX：0428-74-4715	

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム九十九園は昭和47年7月に開設され、その後平成17年8月に新しくユニット型個室の特別養護老人ホーム定員100名と短期入所生活介護事業定員10名をオープンしました。緑豊かな青梅市にある施設です。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ 転記作業が多く、記録のモレ・ダブリ、間違いが多い。・ 回覧式の書類があり、確認したいときに手元にない。・ 根拠のない意見でケアプランが作成されてしまう。・ 職員による記録のレベルのばらつきが目立つ。・ 朝礼の引継ぎ・顔合わせに時間が取られてしまう。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ IT委員会を組織し、現在の記録の問題点について話し合った。(KJ法を用いた問題分析)・ 記録を分析し、重要度・カテゴリーに分ける。その中で転記の多い情報を洗い出した。・ 既存のものではなく、それまでの九十九園の書式を基にした九十九園独自の情報共有ソフトを開発。・ ハードの選定(ユニット建て替えを意識したもの)・ マニュアルの作成(現場が使いやすいマニュアルを自分達の手で作る。ルールを決める。)・ 職員への研修の実施(苦手な職員をカバー出来るように“IT普及委員”を選出)・ アンケート実施(導入後3ヶ月と1年後)・ 情報共有システムの見直し(アンケートを元にシステムを改善する)マニュアル・ソフトの使い勝手向上・ 倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束している。	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ 問題分析、情報分析に時間をかけたことで、現場が使いやすいシステムを作成することができた。(導入時の混乱が少なかった。)・ 転記作業を大幅に減らす事ができた。・ 情報にカテゴリー・タイトルをつけることで職員の意識の変化があらわれた。・ “気付き”を共有することで、経験年数やセクションを超えた利用者支援の視点を共有できるようになった。・ 朝礼をなくすことができた。・ 知りたい情報を、知りたい時に知りたい場所で確認できるようになった。・ 会議等で根拠のある意見が増えるようになった。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ よりケアプランを意識したシステムの開発。・ 重要度・カテゴリーの整理。・ セクション間の入力内容のばらつき修正。・ “読み手”を意識した記録への研修体制づくり・ 使い勝手についての見直し <p>〈参考資料など〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「利用者支援向上のための社会福祉施設・事業者の情報化 村井祐一著」(東京都社会福祉協議会)
--	---

【メモ欄】